

PR

昨年12月に全線開業100周年を迎えた加古川線。ガタゴトと心地良い揺れに身をゆだね、車窓を眺めれば、なじみある風景にも旅情を感じるものです。加古川線沿線にはこの地域の歴史や産業に出会える観光スポットも点在しています。さあ、休日は加古川線に乗ってお出かけしましょう！

加古川にかかる鉄橋を渡る列車



シリーズ③完  
加古川線に  
乗って  
出かけよう

# 楽しく学べて、期待が膨らむ加古川線の旅

ちーたんの館がこの夏リニューアルオープン

久下村駅から歩いて10分ほどの丹波竜化石工房ちーたんの館は年間5万人以上の来館者がある大人気の恐竜スポットですが、現在リニューアル工事に付き休館中。今年の夏頃に新しい姿でオープン予定です。リニューアル後はスペースが2倍近くに拡大されて、ミュー

日本のまんなかで  
地球と宇宙の神秘を体感

日本へそ公園駅の右手の小道を進むと、メタセコイアの並木道の向こうに独創的な建物が見えてきます。ここに、しわざ経緯度地球科学館 テラ・ドームは地球や宇宙、気象や環境などを体験的に楽しく学べる科学館。竜巻発生装置や雨粒のダンスは、小さな子どもが夢中に。人力ポールタワーや太陽の



独創的なテラ・ドームの外観

観察装置など、多彩な展示で大人の知的好奇心も刺激してくれます。プラネタリウムは直径6mのスクリーンにフルカラーで星空が映し出され、しばし宇宙を旅する気分になります。また、全国



来館者を歓迎する丹波竜

ジアンムの要素が色濃くなるとか。ここから7kmほど東の篠山川の河川敷で発見された国内最大級の恐竜、丹波竜こと「タンバティタニス・アミキティアエ」の全身骨格を中心に、館内の展示は迫力満点！常設展示は「プロローグ」「大地のなりたち」「丹波の化石」「生命のあゆみ」「エピソード」の5つのコンセプトでゾーニングされる計画で、生命のあゆみや地層の面白さをより体験的にわかりやすく学べるようになりそうです。

また、新たに学習交流スペースも設置し、充実した図書資料を取り揃えて「もっと知りたい」という思いに添えてくれるようになっています。もちろん、これまで通り化石のクリーニン

トップ20に入る大型反射望遠鏡を備えた天文台も。観察会や科学教室などのイベントも定期的に開催しています。

「ところで、東経135度と北緯35度が交わる日本のへそが2つあることをご存じでしょうか？ 1つは、平成のへそで、これはGPS測量によって計測された地点です」と、テラ・ドームの学芸員で館長補佐の高原撰竜さんがエントランスから指差したのは正面の山腹。なるほど、槍のような4本の柱のモニユメントが見えます。そしてもう1つの、大正のへそは三角測量により導かれた地点で、加古川線の西側、日本へそ公園駅から少し谷川駅寄りの線路脇にその石柱があります。日本へそ公園はジャンボすべり台など遊具も充実。広い芝生でピクニック気分も味わえ、駅前には西脇出身の芸術家、横尾忠則さんが描いた壁画が迎える岡之山美術館も。次の電車までたっぷりある時間もあつという間に過ぎてしまいますよ。



大正のへその石柱

グ作業もおこなわれ、その様子も見学OK。ワークショップやグッズ購入なども引き続き楽しめるとのことです。

今年の夏は加古川線に揺られて、白亜紀の世界へタイムトラベルしませんか？



最寄り駅となるJR久下村駅(徒歩13分)



加古川線100周年サイト 🔍 検索

兵庫県交通政策課 ☎078-362-4378